



02



大会の全体的なコンセプト

- 都市の中心に位置する競技会場、価値及びレガシー
- 最短の移動時間を実現するコンパクトで集中した会場配置
- 都市の中心に配置される選手村
- 85%の競技会場と全てのIOCホテルは選手村から8km圏内に配置
- ヘリテッジゾーンの象徴となる新しいオリンピックスタジアム
- 東京ベイゾーンには9つの恒久の競技会場を新設

全体コンセプト

2.1 オリンピック憲章は「オリンピック競技大会の競技期間は、16日間を超えてはならない。」と定めています。第32回オリンピック競技大会においては、開催期間は以下の期間内から選択するものとしています:2020年7月15日から8月31日(IOC理事会がその他の日程に合意した場合を除く)。2020年第32回オリンピック競技大会を開催するに当たり、貴都市が予定する開催期間とその詳しい根拠を示してください。

2020年東京大会の理想的な日程

東京での2020年オリンピック競技大会は7月24日(金曜日)の開会式に続いて、7月25日(土曜日)から8月9日(日曜日)までの16日間で開催し、閉会式は8月9日(日曜日)に予定する。また、パラリンピック競技大会は8月25日(火曜日)から9月6日(日曜日)までの開催を予定する。

この時期の天候は晴れる日が多く、且つ温暖であるため、アスリートが最高の状態でパフォーマンスを発揮できる理想的な気候である。また夏季休暇に該当するため、公共交通機関や道路が混雑せず、ボランティアや子供たちなど多くの人々が参加しやすい。さらに、この時期は日本全国で伝統的な祭が多く開催される時期であることから、祝祭ムードが漂っている。また、重要な点として、この開催期間は他の大規模な国際競技大会とのスケジュールと重複しておらず、東京においても大会開催に影響を及ぼすような大規模イベントの開催を予定していない。

2.2 2020年大会の開催都市として、オリンピック競技大会に対する貴都市の全体的なコンセプト並びに主要なオリンピック施設の立地選定の動機を記述してください。

都市の中心で開催するコンパクトな大会

私たちの大会コンセプトは、大都市の中心でかつてないほどコンパクトな大会を開催し、スポーツと感動の中心にアスリートを据えることである。

2020年東京大会は、成熟し今なお進化を続ける大都市の中心で開催される。東京が掲げるコンパクトな大会により、私たちは過去からの資産を大切にしながら明日に向かって進んでいく都市の姿を世界に伝えていく。

コンパクトをコンセプトとして掲げる2020年東京大会では、アスリートと観客の双方にとっての利便性を考慮し、下記により競技会場やインフラ設備を配置する。

- 東京圏にある33競技会場のうち28会場、全てのIOCホテル及びIPCホテルが選手村から半径8km圏内に存在する、コンパクトな大会を開催する。
- 過去の遺産を守りながら未来へのビジョンを示すため、競技会場を、運営・テーマにより2つのゾーンに分ける。一つは1964年東京大会のレガシーが集積するヘリテッジゾーン、もう一つは未来に向けて発展する東京の姿を象徴する東京ベイゾーンである。
- ヘリテッジゾーンと東京ベイゾーンを4つのクラスターと5つのプリシントに分類し、また3つの競技会場が存在する第5のクラスター(第6のプリシントを含む)を東京西部の多摩地区に設定して、運営の卓越性と効率性を強化する。
- アスリートが最高のパフォーマンスを発揮できる競技会場を提供するため、国際競技連盟との十分な連携のもとに、要件を満たす既存の施設を選定し、また新設で恒久的または仮設の競技会場を整備する。

- 大会や街中に完全に一体化したライブサイトやファントレイル、その他のエンターテインメントを提供することにより、都民や訪問客がともに楽しむ祝祭的空間を創出する。
- 世界有数の信頼でき発達した公共交通網により、安心・安全かつ効率的な交通運営を確保する。
- 東京の現在および将来のニーズに合致する恒久的な施設を建設することにより、持続可能で素晴らしいレガシーをスポーツやコミュニティや地域のために残す。

2020年東京大会は、大会の歴史と未来を世界に示す絶好の機会である。

2020年東京大会のオリンピックスタジアムが位置するヘリテッジゾーンは、1964年大会のオリンピック・レガシーを今に語り継ぐ場所である。1964年東京大会のために建設された主要会場を、2020年東京大会で使用することは、次の世代へのオリンピックの新たなレガシーを創造し、継承していく精神を示すこととなる。

オリンピックスタジアムとなるのは、国立霞ヶ丘競技場である。国立霞ヶ丘競技場は、1964年大会のオリンピックスタジアムであり、テストイベントが行われる2019年までに最新鋭の競技場に生まれ変わる予定である。2020年東京大会では、8万人収容のオリンピックスタジアムとして、開・閉会式、陸上競技、サッカー、ラグビーの会場となる。

ヘリテッジゾーンには、同じく1964年大会の会場となった国立代々木競技場、東京体育館及び日本武道館を含め、計7つの競技会場が位置する。

東京ベイゾーンは、東京湾の臨海部に位置している。水と緑、生物多様性の拠点として開発される予定の場所であり、東京の未来への発展を力強く感じさせるゾーンである。東京ベイゾーンには、計30の競技が行われる21の競技会場があるほか、IBC/MPCが設置される。そのIBC/MPCは、日本最大の国際会議・展示施設である東京ビッグサイトに置かれる。なお、主要なメディアホテルおよび7つの競技会場がIBC/MPCから徒歩可能な範囲内にあり、東京圏にある全33会場中残りの21会場は半径10km圏内に位置する。

この2つのゾーン、東京の歴史と未来が交差する重要な場所に位置するのが選手村である。私たちの会場配置計画の地理的な中心であるとともに、理念上でも大会の中心を象徴するものとなる。選手村は、面積44haの土地と安全性にも配慮したレクリエーションの水辺にユニバーサルデザインの考え方に基づいて建設され、17,000人の利用が可能である。

ヘリテッジゾーン内にあるIOCホテルも、選手村から半径8km圏内に配置される。IOCホテルが位置する赤坂・六本木地区は、多くの競技会場や日本の歴史的建造物である皇居に近接するだけではなく、国立劇場や国立新美術館、歌舞伎座などが存在する日本の芸術文化の発信拠点でもある。

2.3 貴都市の長期における戦略目標や基本的方針について説明し、大会コンセプトがこれらの達成にどう貢献するのか記載してください。

東京の将来ビジョンと完全に合致した大会コンセプト

2020年東京大会のコンセプトは、東京都の中長期的な都市戦略である「2020年の東京」の実現に向けた取り組みと方向性が一致している。

「2020年の東京」は、2016年大会招致を行っていた2006年に発表した「10年後の東京」の理念を継承しつつ、これを充実・強化している。

「2020年の東京」の根底にあるのは、東京を、21世紀にふさわしい都市へと進化させるということである。

「2020年の東京」に掲げる8つの目標のひとつである「誰もがスポーツに親しみ、子どもたちに夢を与える社会を創る」の実現に向け、スポーツの力の重要性が認識されている。

2020年東京大会は、次の事項を達成するためのプロセスであり、ゴールでもある。

- 2020年東京大会のオリンピックスタジアム周辺、東京ベイゾーンの臨海地区、武蔵野の森地区、1964年東京大会の競技会場も残る駒沢地区を中心にスポーツクラスターを整備し、スポーツを楽しむことができる活気ある環境を生み出す。
- すでに高度に発達している東京の道路網を強化し、持続可能な大都市のモデルとして更なる成熟を目指す。首都圏の主要な幹線道路となる三環状道路は、都心への流入交通を減らし、競技会場が配置される都心部の交通渋滞の解消に重要な役割を果たす。また、選手村やオリンピックスタジアム、IBC/MPCが配置される東京ベイゾーン周辺等において主要幹線道路の整備が進められていることも特筆すべき改善点のひとつである。空路の面においても、選手村まで16kmに位置する東京国際空港(羽田空港)が強化される予定であり、2013年度末までに年間の発着容量を44.7万回まで増加する計画である。
- 水と緑のネットワークを次世代に受け継いでいく。これには、都市公園など433haの整備が含まれる。都民や住民グループの協働により湾岸の埋立地から生まれ変わる88haにも及ぶ「海の森」は、2016年に概成予定である。また、街路樹100万本による直径30kmの緑のリングは、「グリーン・ロード・ネットワーク」を形成することとなる。
- 住み訪れる人が、安心・快適に過ごすことができるよう、ユニバーサルデザインのまちづくりを推進する。2020年までには、ノンステップバスの導入や、駅や公共施設、病院等を結ぶ道路のバリアフリー化を完了させることを目指している。
- 低炭素で高効率な自立・分散型エネルギー社会を創出する。

オリンピック・パラリンピック大会は、成熟を遂げた東京が更に機能的に魅力的な大都市へと変革を遂げるための優れた契機となるであろう。

2.4 地図A(表紙の裏に見開きとする、A3以下の大きさ)を提出のこ:貴都市/地域に貴プロジェクトを重ね合わせたもので、貴プロジェクトの全体像が視覚的にわかる地図

地図A - 大会の全体コンセプト

地図Aを参照(表紙の裏)

※別添参照

2.5 貴都市のビジョンを反映させるために、オリンピック競技大会のすべての構成要素(スポーツ、聖火リレー、都市活動、文化、セレモニー)を貴プロジェクトにどのように統合するかを説明してください。

“Discover Tomorrow” にすべてを集約

2020年東京大会では、誰もが「未来をつかむ(Discover Tomorrow)」ことができ、世界で最も先進的で安全な都市の中心でダイナミックな祭典を経験することができる。

“Discover Tomorrow”というビジョンを大会の全構成要素(スポーツ、聖火リレー、セレモニー、都市活動、文化、教育)に分かりやすく、完全に統合させる。

2020年東京大会では、大会のビジョンを実行するにあたり、大会組織委員会を支援する作業部会を設立する。この作業部会は国、都、全ての会場都市、文化関連組織や教育関連組織等関連する団体の代表で構成される。

大会組織委員会においても、このビジョンと主な目的が各部門が作成する文書を通じて統合され、全てのボランティア向けトレーニングプログラムに織り込まれる。

2.6 オリンピック競技大会の準備期間及び大会中の両方で開催する文化イベントのコンセプトについて述べてください。

文化

日本文化は極めて豊かで刺激的である。何百年という伝統に深く根ざし、現代のトレンドの発信源として若者に影響を及ぼしている。

東京を訪れる人は、革新的なファッションやデザイン、音楽、美食、現代美術を生み出す活気のある雰囲気に魅了される。これらは、すべて日本古来の伝統からインスピレーションを受け、伝統と調和している。

私たちは、訪れる人に特別な体験をしてもらうため、東京、日本、そして世界の文化の最高の要素を取り出し、独自のビジョンである“Discover Tomorrow”から発想を得た様々な文化プログラムを展開する。

移行段階から大会まで – すべての人のためのステージ、未来のためのステージ

開催都市決定後から文化事業、展覧会、祭典など包括的なプログラムに着手する。このプログラムには、アスリートと同規模のクリエイターが世界中から集い、大会期間中にピークを迎える。

これらのプログラムにより、日本を含めたアジアでのオリンピックの価値の普及を促進し、地域コミュニティで大会への情熱を喚起する。

2016年招致をきっかけとして開始した「東京文化発信プロジェクト」は、最先端の芸術からコミュニティアートまで、次世代を育成するプラットフォームとしての機能を持ちながら、文化の多様性を促進する事業を行ってきた。このプロジェクトをさらに発展させ、文化に対する意識を広め、すべての市民にオリンピズムのメッセージを伝えていく。

2020年東京大会では、「アーツ・フォー・オリンピズム・ユース・クリエイション・プログラム」を実施し、若手芸術家を支援する東京都の取組をさらに確かなものにする。このプログラムでは、大会期間中の国際的なコラボレーションや伝統文化から革新的な技術にいたるまでの挑戦的なプロジェクトを通じて、世界中の若手芸術家がオリンピズムの概念を探究する取組を進める。

大会期間中のプログラム – 都市が劇場となる

「TOKYO2020フェスティバル・オブ・アーツ・アンド・カルチャー」は、日本社会が共有するオリンピックの価値を称え、未来を形作る。

このフェスティバルでは、大会を訪れた人々や地域コミュニティに、文化に触れ、親しむ機会を数多く提供し、「未来(あした)をつかむこと」を目指した、日本の文化特性である多様性に関する世界の若手芸術家の対話」という主なテーマを通じて文化交流を促進する。

「アーツ・フォー・オリンピズム・ユース・クリエイション・プログラム」に参加する若手芸術家、高齢者、障害者等は、共に創作し、卓越、友情、尊敬というオリンピックの価値を普及し、2012年ロンドン大会の「アンリミテッド」プロジェクトの成功を継承する。

大会期間中は、劇場や美術館を開放するだけでなく、公園や通りや公共施設など、都市の隅々で、伝統と現代、日本古来の叡智と先端技術が混ざり合った文化の多様性を体験できる。都市自体がこの祝祭のための大きな劇場となる。

TOKYO2020文化プログラムは、スポーツと文化を通じた地域社会を構築する社会システムとして、オリンピックのレガシーとなるだろう。

2.7 オリンピック競技大会の準備期間及び大会中の両方で計画する教育プログラムのコンセプトについて述べてください。

教育

私たちは、オリンピックは、人々を鼓舞し、まとめ、一致団結させる独特の力を持っていることを認識している。そうした力強いメッセージを2020年東京大会の教育プログラムを通じて日本及び世界中の全ての人々に伝えていく。スポーツの根本的な価値や、健康的なライフスタイルの普及といったオリンピックムーブメントの発展が、このプログラムの優先事項となる。

移行段階から

2020年東京大会は、積極的な国際的なスポーツ振興事業を展開することによって2012年ロンドン大会の「インターナショナル・インスピレーション」プログラム及び2016年リオ大会の同様の活動のレガシーを引き継ぐ。

オリンピックは地域コミュニティの講演会でオリンピックの価値を推進し、市民は、地域スポーツクラブやスポーツ教室によって、年齢、性別、能力に関わらず健全なライフスタイルを取り入れることができる。

日本の全ての中学・高校では、オリンピックムーブメントの果たす役割や公正に取り組む精神、健全なライフスタイルの価値、体育及び学校スポーツが国の教育課程に既に組み込まれている。若者が充実した人生を送ることができるよう、オリンピックの価値と調和するように、プラスの価値に基づいたアンチ・ドーピング教育プログラムが拡大される。また、各学校や大学がNOCと対になる、「1校1NOC運動」を通じてさらに学生にオリンピズムを広めていく。学生はそのNOCが属する国の文化や歴史を学び、その国の若者と交流を図る。



大会期間中の活動

大会組織委員会は若者が大会に参加できる機会を最大限用意する。

ヤングゲームスメイカー (Young Games Maker) : 2012年ロンドン大会での取り組みを続行し、大会組織委員会で若者を対象としたインターンやボランティアを募る。

「1校1NOC運動」でその国の文化について学んだ学生達は入村式に参加するか、あるいは競技スタッフやチャイラーになる機会が与えられる。これらはIOCやIFと協議して実施される。

大会実施前の3年前から実施されるユースキャンプでは、世界中の若者がオリンピック大会の親善を祝い、普及させる。

2.8 貴都市のオリンピック競技大会の開会式及び閉会式のコンセプトについて述べてください。会場の場所と座席数、既存会場か今後建設予定なのかについて、明らかにしてください。

セレモニー

開閉会式は、“Discover Tomorrow”を表現する演出がされる。また、最新技術と日本ならではの演出で新しい日本の姿を世界に示すとともに、日本の伝統文化も称える。

開閉会式は80,000席を備えた最新鋭の施設である新たな国立霞ヶ丘競技場で行われる。ここは1964年大会でも開閉会式が行われた場所である。

2.9 都市活動(例:ライブサイト)について述べてください。また都市活動がオリンピック競技大会中、貴都市の一般市民がまたとないオリンピック競技大会を経験する上でどのような貢献ができるかについて述べてください。

さらに、これらのプログラムを行う上で関わりのあるさまざまなステークホルダーはどのように交流するかを説明してください。

都市活動

ライブサイト、コミュニティ主体の祭典、ファントレイル、その他文化プログラムからなるさまざまなイベントにより、活気あふれる東京になる。大会期間中、訪れた人々だけでなくオリンピック・ファミリーや地元コミュニティに素晴らしい体験をもたらす、オリンピックとコミュニティが一体となる。

都市活動プログラムは、主に東京都が資金提供し、大会組織委員会や関連諸組織と密に連携を取りながら実施する。

ライブサイト

東京の有名な公園(代々木公園、日比谷公園、上野恩賜公園、井の頭恩賜公園)に大型スクリーンを設置してチケットを持たない人々も感動を共有できるようにする。

ライブサイトは、都市部で伝統文化とポップカルチャーを調和させ、音楽イベントや演劇も主催し、スポーツ、文化、最新技術が世界的に融合することにより、発見の旅へと観客を誘う。

東日本大震災の被災地にもライブサイトを設置し、東京の会場と中継でつなぐ。

コミュニティ主体の祭典

都内の地域コミュニティは、街頭装飾やイベント展開により、地域の特性を活かして大会の祝祭の雰囲気を盛り上げ、来訪者を温かく迎え入れる。

ファントレイル

ボランティアと若手アーティストによって競技会場と最寄駅の間に、「ファントレイル」が設置され、活気ある祝祭の雰囲気や彫刻、音楽、ストリートパフォーマンスでイベント会場への道のりを盛り上げる。

2.10 スポーツ活動を一般市民にもたやすために、貴都市が提案するイニシアチブ(招致活動中又は大会組織委員会として)について述べてください。例えば、貴都市ではオリンピック・デーをどのように祝う予定かについて記述してください。

スポーツ活動

私たちは、オリンピック大会を開催することが社会的統合や健全なライフスタイルに寄与する意義を認識している。

2020年東京大会は2012年ロンドン大会の「スクール・ゲーム・プログラム」及び2016年リオ大会に引き続き国際的なスポーツ活動のレガシーを築く。

その他のイベント活動により、東京都スポーツ振興局(2010年設置)が行うスポーツ全般の振興、また、教育部門と連携した若者のスポーツ振興を推進する取組を補完する。これらの活動には以下のものが含まれる。

- ・「スポーツ祭東京2013」などのスポーツイベントを開催する。この大会は日本の各都道府県から27,000人以上の選手と役員が参加し、一般のスポーツ大会と障害者のスポーツ大会をひとつのイベントとしてとらえ開催する。
- ・2018年まで、すでに2011年に開催した世界体操競技選手権大会やFIVBバレーボール世界選手権のような国際大会を実施する。
- ・2011年には240万人以上が東京で国際的なスポーツ大会を楽しんでいる。
- ・6月23日に開催される「オリンピックデー」の祝祭を、JOC主催による芸術とスポーツを融合したイベントを通じて盛り上げる。
- ・毎年10月10日には1964年大会の開会式の日を記念した「スポーツフレンドシップデー」を開催する。
- ・都立駒沢オリンピック公園では、オリンピックフェスティバルを開催している。2011年には13,000人を超える来場者が参加した。

日本では、独立行政法人国際協力機構(JICA)のボランティア事業を通じて、開発途上国にスポーツ指導・普及の分野でボランティアを派遣している。これらのボランティアのトレーニングを受けた約60名の選手が、2000年シドニー大会から2012年ロンドン大会までの4つのオリンピック大会に参加した。日本ではこうしたボランティアを派遣することによって、開発途上国における若者の健全な成長に対する貢献を今後も継続していく。

2.11 文化、教育、セレモニー、都市活動の予算の明細を述べてください。またその財源はどの団体・組織から確保するか提示してください。

予算

表 2.11 予算と財源

	主体	金額
文化プログラム	TOCOG、東京都、東京都歴史文化財団、その他	34億円 (39百万米ドル)
教育プログラム	TOCOG、東京都、区市町村、地域コミュニティ、嘉納治五郎記念国際スポーツ研究・交流センター、東京都スポーツ文化事業団、その他	11億円 (12百万米ドル)
セレモニー	TOCOG、その他	106億円 (121百万米ドル)
都市活動	TOCOG、東京都、地域コミュニティ、スポンサー企業、東京都公園協会、東京都スポーツ文化事業団、その他	53億円 (60百万米ドル)